



中西とも子の議会報告

●発行：箕面市議会・市民ネットワーク

〒562-0003 箕面市西小路4-6-1(市民ネットワーク控え室) 724-6787

9月議会（9/4～10/17）中間報告

納得できない！ 「緊急雇用」交付金の不公平な使い方／箕面駅前サンプラザビルの「耐震化」を不要といい放つ市の対応。 やっぱ、ダメでしょ！

「起業支援型創造事業」とは…

「緊急雇用創造事業」という国・府の制度。

起業後 10 年以内の企業や NPO を委託先として、企業が成長することで新たな雇用の受け皿を創出するのが目的の「緊急雇用対策」です。

この制度を使って、箕面市内の3つの NPO に、市は「随意契約」で委託するというもの。1 事業所あたり約 1500 万円～3500 万円という高額です。

当初の議案説明では「入札で委託先を決定する」とのことでしたが、詳細な説明を求めるなかで「随意契約」(国や自治体が競争入札によらず、任意で決めた相手と契約すること)であることが分かりました。

また、スキルのある起業者を支援する、というのではなく、委託費には人件費や事業の経費以外に、スキルやノウハウを習得するための費用(資格取得のための講習費用、交通費、アドバイザー代など)も含まれています。

3 事業の委託先である起業内容と内訳は以下の通りです。

◆点字発行物推進創造事業…点字ビジネスのための点訳技術の習得費用、市刊行物の委託費

新規雇用 8 名分の人件費、事務所費、機器代。

◆農と食をつなげるソーシャルビジネス…菜園管理や堆肥づくり、「食」メニュー開発、農産物販売などのノウハウ習得費用や、菜園や店舗賃貸料、調理師免許取得の講習費

◆不登校支援型学生サポーター派遣事業…小・中・高校生を対象に、不登校またはその傾向にある者を対象に支援活動を行う学生サポーターを派遣。そのためのノウハウやシステム構築のための費用

起業内容は、社会的な有益性があると思いますが、事業計画の詳細や収支計画がないため、採算性や継続的な事業の可能性が不明。また、「不登校支援…」は、委託費がなくなる再来年度からは有料になるとのこと。また学生派遣を「雇用創出」と言えるのか？と疑問だらけです。

さらに起業後 10 年以上経過していて、そもそもの「条件」がクリアされていない企業もあるなどデタラメのオンパレード。NPO など事業補助金は数十万円を受給するにも、詳細な企画書を提出し、公開でプレゼンテーションを行って、決定されます。

今回は、企画書も公開されず、内容的にも不透明な点が多々あり、担当部署もしっかり説明できないのに「府の審査が通ったので問題ありません」というばかり。

国の「緊急雇用」対策のあり方や、大阪府のザルのようなチェック体制にも問題があると思われませんが、地方自治が叫ばれているご時世に、公金を執行する自治体のありようが厳しく問われています。こんなオイシイ条件なら、多くの市民が応募したかっただけ。市の広報や公共施設で案内されず、随意契約で委託先を決めるのは公平性にも欠けたため、中西は問題を指摘し、この補正予算には反対。

箕面駅前サンプラザビルの長期修繕計画作成は、複数の業者が辞退！ 市は「耐震化は考えていない」と答弁！！

市は長期修繕計画の作成を数社に依頼したものの、「設立から30年以上経過したビルに対し、責任をもった長期修繕計画が作成できない」と、引き受けてもらえませんでした。

そこで、仕方なく箕面都市開発(株)が作成したのですが、その計画書には「耐震化工事は含まれない」と書かれてありました。

市の公共施設なのに、 市民の安全はどうでもいいのか？

サンプラザビルには、ギャラリーや郷土資料館、会議室をはじめ、市の施設がたくさんあります。耐震化を除外しているのはおかしいとの指摘に対し、「耐震化診断には多くの費用がかかる」と、仰天する答弁がかえってきました。

市民の安全や命をおざなりにした姿勢には、呆れはててしまいますし、認める訳にはいきません。

修繕積立金は赤字が想定されているが、 今後に向けた議論は先送り。

同ビルは、地下1階、地上8階になっており、地下、3階～8階の全フロアと2階の半分以上を市と、

市が99.9%出資している箕面都市開発(株)が保有しています。そして、箕面都市開発(株)は、サンプラザビルの管理・運営のために設立された第三セクターで、市には監督責任があります。

建設から30数年が経過しているのに、これまで一度も大規模改修がおこなわれず、場当たりに小規模な改修が繰り返されてきました。ビルの長寿命化が適切に行われてきたのか、税金が無駄に使われてこなかったのか。非常にずさんです。

専門家が「責任をもった長期修繕計画が作成できない」と判断したくらいですから、適切なビル保全がなされてきたのかは、推して知るべしです。

そのうえ、箕面都市開発(株)が今年3月に作成した長期修繕計画(20年)は、耐震化をしない状態でも、すでに修繕積立金が赤字であることが判明しているのです。

積立金を増額するのか、またビルの存続をどのように考え、長寿命化をはかるのか。そのような議論を今から始めるべきではないか。しかし、市は5年毎に検討していくので、今はその必要なし、との考えを示しました。

税金の無駄遣いを続け、放置した市、 箕面都市開発(株)、議会の責任は重大

このような状態になるまで放置しておいた管理会社(箕面都市開発)と、箕面市の責任は重大です。そして、この問題に何も言わない議会も、問われます。

さらに、6階・7階の貸床は、昨年度も借り手がつかなかったため、箕面市が支払っている約1800万円の共益費分が赤字になっています。

中西は、ただ空き室にしておくのなら、起業支援や、コミュニティカフェなど地域住民が集う場として、有効活用すべきではないか、と提案しています。

議会傍聴へ！ 中西は討論・一般質問します
10月7日(月)討論・採択・一般質問
10月8日(火)一般質問